



SnapDrive snap restore  
コマンドの使用に必要な情報  
Snapdrive for Unix

NetApp  
August 06, 2021

# 目次

SnapDrive snap restore コマンドの使用に必要な情報 .....	1
--	---

# SnapDrive snap restore コマンドの使用に必要な情報

Snapshot コピーをリストアするには、リストアするストレージエンティティを決定し、Snapshot コピーの名前を指定します。

次の表に、SnapDrive snap restore コマンドの使用時に入力する必要がある情報を示します。

要件 / オプション	引数
<p>リストアするストレージエンティティのタイプを決定し、該当する引数を指定してそのエンティティの名前を入力します。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>リストア対象のホスト・ボリュームまたはファイル・システムを指定すると、指定した引数は、この引数を含むディスク・グループに変換されます。SnapDrive for UNIX を使用すると、ディスク・グループ全体がリストアされます。SnapDrive for UNIX では、これらのディスク・グループ内のホスト・ボリュームのファイルシステムをフリーズし、これらのディスク・グループの LUN を含むすべてのストレージ・システム・ボリュームの Snapshot コピーを作成します。</li><li>NFS マウントポイントであるファイル仕様を指定した場合、引数はディレクトリツリーに変換されます。SnapDrive for UNIX では、NFS ディレクトリツリーまたはファイルのみがリストアされます。ディレクトリツリー内で、SnapDrive for UNIX を使用すると、Snapshot コピーの作成後に作成した新しい NFS ファイルまたはディレクトリがすべて削除されます。これにより、リストアされたディレクトリツリーの状態が、ツリーの Snapshot コピー作成時と同じになります。</li><li>LUN をリストアすると、SnapDrive for UNIX によって指定した LUN がリストアされます。</li><li>LUN で直接作成されたファイルシステムをリストアする場合、SnapDrive for UNIX によって LUN とファイルシステムがリストアされます。</li><li>Snapshot コピーに、複数のストレージシステムボリュームにまたがるストレージエンティティが含まれている場合、その Snapshot コピー内の任意のエンティティをリストアできます。</li></ul>	LUN ( <code>-lun_file_se_c</code> )
LUN の名前。ストレージシステム、ボリューム、および LUN の名前を含める必要があります。 <code>_</code>	ディスク・グループ ( <code>dg_file_spec_c</code> ) またはボリューム・グループ ( <code>g-vg_file_spec_`</code> )

要件 / オプション	引数
_name には、ディスクまたはボリュームグループの名前を指定します	ファイルシステム (-fs_file_spec_)
_ ファイルシステムの _ 名	ファイル (-file_file_spec_)
_ NFS ファイルの _ 名	ホスト・ボリューム (-hostvol_file_spec_) または論理ボリューム (-lvol_file_spec_)

要件 / オプション	引数
<p>_ ホストまたは論理ボリュームの名前要求されたボリュームとそのボリュームが含まれているディスクグループの両方を指定する必要があります。たとえば、-hostvol dg3/acct_volume._ のように指定します</p>	<p>Snapshot コピーの名前を指定します。ローカル・ホストに現在存在するコマンドプロンプトで指定した引数のいずれかが <i>file_dspec</i> である場合は '短い形式の Snapshot コピー名' を使用できます</p> <p>ホストに <i>_file_name</i> 引数が存在しない場合は、Snapshot コピー名の長い形式を使用して、ストレージ・システム名、ボリューム名、Snapshot コピー名を入力する必要があります。Snapshot コピーに長い名前を使用していて、コマンドプロンプトでパス名がストレージシステムやストレージボリュームの情報と一致しない場合、SnapDrive for UNIX は失敗します。次に、長い Snapshot コピー名の例を示します。「big_filer : /vol/account_vol : snap_20031115」</p> <p>場合によっては '<i>FILE_spec</i>' 引数で指定された値がホスト上に存在しない可能性がありますたとえば 'ファイル・システムをアンマウントした場合や 'エクスポート' 移植解除' または削除によってディスク・グループを削除した場合でも 'そのファイル・システムまたはディスク・グループは '<i>file_spec</i>' 引数の値になる可能性がありますただし、存在しない値とみなされます。SnapDrive for UNIX では '存在しない <i>file_spec</i> の Snapshot コピーをリストアできますが '長い Snapshot コピー名' を使用する必要があります</p> <p>SnapDrive for UNIX では、複数のストレージ・システムおよびボリュームにまたがる Snapshot コピーをリストアする際に、存在しない「<i>FILE_spec</i>」引数を使用すると、コマンド・ラインで不整合が発生することがあります。既存の <i>file_spec</i> 引数は許可されませんが複数のストレージシステムの Snapshot コピーからストレージエンティティを 1 つだけリストアする場合は、ストレージエンティティが含まれているストレージシステムと同じストレージシステム上に指定する必要はありません。</p> <p>同じ Snapshot コピー名の省略形を使用すると、ストレージ・システムおよびストレージ・システム・ボリューム名は省略されるため、「<i>snap_20031115</i>」と表示されます</p>
<p>Snapshot コピー名 ( snapname )</p>	<p><i>snap_name</i></p>

要件 / オプション	引数
<p>「 <i>mysnap1</i> 」のような短い名前、またはストレージ・システム名、ボリューム名、Snapshot コピー名を含む長い名前のどちらかです。</p> <p>一般的には、短縮名を使用することを推奨します。 引数 <i>file_spec</i> が存在しない場合：つまり ' ホスト上に存在しない場合 '<i>file_spec</i>' 引数の説明を参照してくださいそのあとで、Snapshot コピーに長い名前を使用する必要があります。</p>	<p><code>`-reserve`</code></p>
<p><code>-noreserve`</code></p>	
<p>オプション：Snapshot コピーのリストア時に SnapDrive for UNIX でスペースリザベーションを作成する場合</p>	<p>「 <code>-force</code> 」を使用します</p>
<p>~</p>	<p><code>-noprompt`</code></p>
<p>~</p>	<p>オプション：既存の Snapshot コピーを上書きするかどうかを指定します。このオプションを指定しないと、既存の Snapshot コピーの名前を指定した場合に処理が停止します。このオプションで既存の Snapshot コピーの名前を指定すると、Snapshot コピーを上書きするかどうかの確認を求められません。SnapDrive for UNIX がプロンプトを表示しないようにするには '<code>-nofrt</code>' オプションも指定します( <code>-noprompt`</code> オプションを使用する場合は '<code>-force</code> オプションを常に指定する必要があります ) 最後の Snapshot コピー以降に構成が変更されたディスクグループをリストアする場合は、コマンドプロンプトで <code>-force</code> オプションを指定する必要があります。たとえば、Snapshot コピー作成後にディスク上のデータのストライピング方法を変更した場合は、<code>-force</code> オプションを追加する必要があります。「 <code>-force</code> 」オプションを指定しない場合、この操作は失敗します。このオプションを使用すると '<code>-noprompt`</code> オプションを指定しない限り ' 操作を続行するかどうかを確認するメッセージが表示されます</p> <div style="border: 1px solid #ccc; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p> LUN を追加または削除した場合は '<code>-force</code> オプションを指定しても ' リストア処理に失敗します</p> </div>
<p><code>-deviceType</code></p>	<p>~</p>

要件 / オプション	引数
<p>オプション： SnapDrive for UNIX の処理に使用するデバイスのタイプを指定します。これは 'ホスト・クラスタ全体としての LUN' ディスク・グループ' ファイル・システムの範囲を指定する「共有」または LUN' ディスク・グループ' ファイル・システムの範囲をローカルとして指定する「専用」のいずれかです</p> <p>--deviceType 専用オプションを指定した場合は 'UNIX 用の SnapDrive 2.1 で現在サポートされている SnapDrive restore connect コマンドのすべてのオプションが常に使用されているようになります</p> <p>ホスト・クラスタ内の任意の非マスター・ノードから -deviceType shared オプションを指定して SnapDrive restore connect コマンドを開始した場合、コマンドはマスター・ノードに出荷され、実行されずこれを実現するには、root ユーザの「rsh」または「パスワードなしのアクセス」プロンプトが、ホストクラスタ内のすべてのノードに対して設定されている必要があります。</p>	<p>mntotts.</p>
<p>~</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• オプション： * ファイルシステムを作成する場合は、次のオプションを指定できます。</li> <li>• ホスト・マウント・コマンドに渡すオプションを指定するには '-mntopts' を使用します（たとえば 'ホスト・システム・ロギング動作を指定する場合）指定したオプションは、ホストファイルシステムのテーブルファイルに保存されます。使用できるオプションは、ホストファイルシステムのタイプによって異なります。</li> <li>• 引数「--mntopts_」は、mount コマンドの「-o」フラグで指定されたファイルシステムの「-type」オプションです。引数「--mntopts_」に「-o」フラグを含めないでください。たとえば、シーケンス -mntopts tmplog は、文字列「-o tmplog」を「mount」コマンドに渡し、テキスト tmplog を新しいコマンドラインに挿入します。</li> </ul> <div style="border: 1px solid gray; padding: 10px; margin-top: 20px;"> <p> ストレージおよびスナップ操作に無効な '--mntopts_' オプションを渡した場合 'UNIX 用 SnapDrive はこれらの無効なマウントオプションを検証しません</p> </div>

## Copyright Information

Copyright © 2021 NetApp, Inc. All rights reserved. Printed in the U.S. No part of this document covered by copyright may be reproduced in any form or by any means-graphic, electronic, or mechanical, including photocopying, recording, taping, or storage in an electronic retrieval system- without prior written permission of the copyright owner.

Software derived from copyrighted NetApp material is subject to the following license and disclaimer:

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY NETAPP "AS IS" AND WITHOUT ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE, WHICH ARE HEREBY DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL NETAPP BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

NetApp reserves the right to change any products described herein at any time, and without notice. NetApp assumes no responsibility or liability arising from the use of products described herein, except as expressly agreed to in writing by NetApp. The use or purchase of this product does not convey a license under any patent rights, trademark rights, or any other intellectual property rights of NetApp.

The product described in this manual may be protected by one or more U.S. patents, foreign patents, or pending applications.

RESTRICTED RIGHTS LEGEND: Use, duplication, or disclosure by the government is subject to restrictions as set forth in subparagraph (c)(1)(ii) of the Rights in Technical Data and Computer Software clause at DFARS 252.277-7103 (October 1988) and FAR 52-227-19 (June 1987).

## Trademark Information

NETAPP, the NETAPP logo, and the marks listed at <http://www.netapp.com/TM> are trademarks of NetApp, Inc. Other company and product names may be trademarks of their respective owners.